

奥ゆかしさや遠慮深さなどの美德の裏返しなのであろうか、日本人にはコミュニケーションを得意としない一面もある。しかしながら国際社会において表現不足は誤解を生み、チャンスをものにするだけの主張能力が乏しいと理解されるということは知っておかなくてはならない。熊本大学附属図書館のラーニングcommonsは日頃学び合うことが出来ない専門性の異なる仲間たちと出逢い、意見を交換しながら切磋琢磨する新しい学びのスタイルと場所を提供している。恥ずかしさや固く自らを閉ざすプライドをはねのけ、他の感受性や意見を浴びながら、沢山試し失敗することによってあからさまな自分をさらけ出してみよう。

現代アートは『新しいものの見方や考え方』を世の中に発信する。イタリアの美術家ルーチョ・フォンターナ(1899 - 1968)はキャンバスを切り裂くことによって空間主義を打ち出したが、現代とは既存の“境界”や“型”に疑問を投げかけ、それらにメスを入れることによって新しいコンセプトを切り開く“発想の転換力”と“創造性”の時代ではないだろうか。

先日厚生労働省が「若い世代の幸福度が低め」であること、不安や悩みの原因の多くは仕事であるという調査結果を発表した。あなたにとって幸福な一生とはどういうものだろうか。今までやってきた”やるべきこと”を基礎として“やりたいこと”に目を向け、仕事に“個の価値”を投影出来ればそれは自然に“生きがい”へとシフトする。悩みも不安も乗り越える力も湧く。“個”の価値である“表現”、“発想”と“創造”は私たち各々の感覚がベースである。私たち人間本来の“生きる(VIVERE)”ということの意味をもう一度問うこと、発想脳には欠かせないあそび“柔軟性(ERASTICITA`)”、ヒューマニティー、動物的勘と“皮膚(PELLE)”感覚を呼び醒ますことは急務である。まずは自分の“好き”の傾向を知る“遊び”や“鍛錬”が必要になる。『自己表現ワーク』はその“遊び”と“鍛錬”のために用意された機会である。講師自身が異国の地で“個”の確立を求めて試行を繰り返した実践をもとにそれらを再構築した“自己解放のメソッド”である。外国人スタッフと交流し、様々なアプローチによる刺激を浴びながら全脳を意識的に回転させて自己を解放し、自分の発したい、またはどうしても発してしまう内面を知り自分の“頂点”を目指そう。

<ガイダンス項目>

- 日本人の美德とコミュニケーション
- 現代アートとラーニングcommons
- 境界や型を破る発想力・創造性
- 幸福な一生とは? 一度しかない人生
- 講師の経験
 - VIVERE(生きる) / PELLE(皮膚) / ERASTICITA`(柔軟性)
- 見直された右脳 → 全脳の時代
- 「遊び」の重要性
- 日本の教育体系と表現の苦手意識
- 自己解放のメソッド
- 自分の「好き」
- 一人ワンアクションずつ。皆で1作品を制作。題して『共感の泉』
- あなたの子どもの頃の原風景とは?好きだった遊び、心に残った表現経験についてのアンケート
- 深呼吸の必要 長田弘 「あのときかもしれない」一章3P配布。

<参考文献>

- 子どもと学校 河合隼雄 岩波新書
- ハイコンセプト 新しいことを考えだす人の時代 ダニエル・ピンク 三笠書房
- 新しい働き方が出来る人の時代 セス・ゴーティン 三笠書房
- 型を破る人の時代 セス・ゴーティン 三笠書房
- 右脳の冒険 コリン・ウィルソン 平河出版社
- ころを見つめるワークブック 鈴木義也 塩谷準平 共著 培風館
- 美術科教育の基礎知識 福田隆眞ほか 建帛社
- 子どもが絵を描くとき 磯部錦司 一藝社
- 美の構成学 ハウハウスからフラクタルまで 三井秀樹 中公新書
- 感情表現辞典 中村明 東京堂出版
- ことばの習得 鈴木孝明・白畑知彦 くるしお出版
- 内なる創造性を引きだせ ベティ・エドワーズ 河出書房新社
- 内なる画家の眼 ベティ・エドワーズ エルテ出版
- 脳の右側で描け ベティ・エドワーズ エルテ出版
- 子どもとあそび 環境建築家の眼 岩波新書
- 深呼吸の必要 長田弘 晶文社
- Bill Viola THE PASSIONS London National Gallery
- 赤ちゃん学を知っていますか? 産経新聞「新・赤ちゃん学」取材班 新潮文庫

自己表現ワーク

《集中講義》(要申し込み)

日時: **2014年9月24日(水)・25日(木)**

10:00~15:00 (部分的参加も可能です。)

※ 外国人アシスタントと共に日本語を含めた多言語で進行します。

会場: **附属図書館中央館1F ラーニングcommons**

熊本大学附属図書館 TEL: 096-342-2227 FAX: 096-342-2210 E-Mail: densa@lib.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学学生支援部 TEL: 096-342-2713 FAX: 096-344-4914 E-Mail: gak-kikaku@jim.kumamoto-u.ac.jp